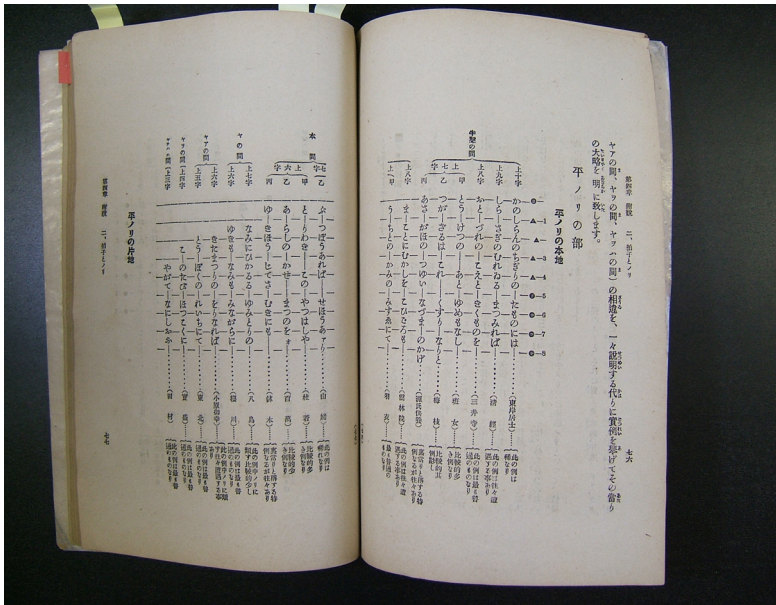


神津道一 『謡ひの総心得』

全五章のうち、第四章「附説」(四十五頁分) 全体が拍子の説明に当てられる。これは全体の三分の一弱になる。前半は、平ノリ、大ノリ等を図示しつつ説明(写真下)。後半の「拍子と合方」の節は、兩垂謡と三地謡の違いを寸法の違いとして図示する。鼓の手との対応関係にくわえて、一句のはこびを「序破急」で説明する。また、兩垂謡の「持ち合いを隠す」謡い方として、ツヅケ謡との仮名の位置のずれを、やはり寸法の違いとして図示する。一拍の大きさを四寸と定めるその基準の取り方が、読者には意味不明である。



標題 内題：—

標題紙：能楽講義秋季増刊 第十一号

謡の総心得

奥附：能楽講義第一期第十一号秋季増刊

刊

その他：謡ひの総心得(目次)、うたひの

総心得(表紙)

著者 奥附：神津道一

その他の場所：能楽図書研究会(標題紙)

出版 版次：第三版

出版地：東京

出版社：能楽図書研究会出版部

出版年：大正3(1914)

その他の場所：—

形態 冊数：一冊 頁数：一五八頁

寸法：22×15 (cm)

状態 写本版本の別：版本 現物複写の別：現物

備考 初版は大正二(一九一三)年。